

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成24年10月4日(2012.10.4)

【公表番号】特表2012-500057(P2012-500057A)

【公表日】平成24年1月5日(2012.1.5)

【年通号数】公開・登録公報2012-001

【出願番号】特願2011-523171(P2011-523171)

【国際特許分類】

A 6 1 F 2/44 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 2/44

【手続補正書】

【提出日】平成24年8月10日(2012.8.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

上位椎体の棘状突起と下位椎体の棘状突起との間の棘突起間隙に挿入するための棘突起間スペーサ組立体であって、該組立体が、

前記棘突起間隙への挿入を可能にするサイズ及び構成にされた棘突起間スペーサ部材であって、このスペーサ部材が、前記上位椎体の棘状突起の下面に接触する頭側面と、前記下位椎体の棘状突起の上面に接触する尾側面と、腹側端と、開口を形成する背側端とを備えた前記棘突起間スペーサ部材と、

前記スペーサ部材を前記上位及び下位椎体の棘状突起に作動可能に結合するための第 1 の側方プレート及び第 2 の側方プレートを備えた係合機構であって、この係合機構が、前記第 1 の側方プレートに接続された第 1 の部分と前記第 2 の側方プレートに接続された第 2 の部分とを有する折り畳み式ロッドを備えた前記係合機構と、を有し、

前記折り畳み式ロッドの第 1 の部分及び第 2 の部分は、互いに対して移動可能であり、前記第 1 の側方プレートと前記第 2 の側方プレートとの間の距離を縮小することにより、前記第 1 の側方プレート及び前記第 2 の側方プレートが前記係合機構を前記棘状突起に固定する、ことを特徴とする棘突起間スペーサ組立体。

【請求項 2】

第 1 のツールが前記開口の内部に収容されて位置決めネジにネジ係合し、前記折り畳み式ロッドの前記第 1 の部分及び前記第 2 の部分の位置を固定する請求項 1 に記載の棘突起間スペーサ組立体。

【請求項 3】

前記折り畳み式ロッドの第 1 の部分及び第 2 の部分は、各々、この第 1 の部分を第 2 の部分と係合させるための摩擦係合部分を備えている請求項 1 に記載の棘突起間スペーサ組立体。

【請求項 4】

圧縮ツールは、前記第 1 の部分及び第 2 の部分が互いに圧縮されるように、前記第 1 の部分及び前記第 2 の部分に係合して、前記第 1 の部分及び第 2 の部分に実質的に同等であるが相反する力を印加する請求項 3 に記載の棘突起間スペーサ組立体。

【請求項 5】

前記摩擦係合部分は歯付き部分である請求項 3 に記載の棘突起間スペーサ組立体。

【請求項 6】

前記係合機構は、前記第 1 の側方プレート又は前記第 2 の側方プレートの各々の内側表面から延びるスパイクを備え、このスパイクは、前記棘状突起内に延びてこれらを貫通する請求項 1 に記載の棘突起間スペーサ組立体。

【請求項 7】

前記スパイクは、半円形状である請求項 6 に記載の棘突起間スペーサ組立体。

【請求項 8】

前記スパイクは、ピラミッド形状である請求項 6 に記載の棘突起間スペーサ組立体。

【請求項 9】

前記第 1 の側方プレートの内側表面から延びる前記スパイクが、前記第 2 の側方プレート内の対応する収容穴に係合し、前記第 2 の側方プレートから延びる前記スパイクが、前記第 1 の側方プレート内の対応する収容穴に係合する請求項 6 に記載の棘突起間スペーサ組立体。

【請求項 10】

前記腹側端の幅は、前記棘突起間隙への前記棘突起間スペーサ部材の挿入を容易にするための先細にされている請求項 1 に記載の棘突起間スペーサ組立体。

【請求項 11】

前記折り畳み式ロッドは、前記棘突起間スペーサ部材を通して延びる請求項 1 に記載の棘突起間スペーサ組立体。